

ヤマコン 佐藤隆彦社長にきく経営の現状

—近年は本業に加え 設備事業の営業を強化し 経営の多角化も進んでいる。

佐藤社長 コンクリート 佐藤社長として半世紀の社歴を刻んだが、バブル後に建設不況が10年ほど続き、本業の限界を身に染みて感じた。多角化とまではいかないが、補助輪をいくつか出して倒れにくい構造にし、収益の柱に育てようと考え、

7月から東北電力への売電を開始した「はちのへプロジェクト」が運営するメガソーラー発電所は当社にとって初めての事例だったが、メガソーラーはひとまず打ち止めにする。太陽光発電は本業を補完する事業として

合せて360kwの野立て発電所を稼働させた。これまでに8ヵ所(合計1.8MW)の太陽光発電所を稼働させている。続いて、今度は中小型の風力発電事業への参入

おける企業責任も増えている。今まで重視してこなかったが、ステーションを少し上げ、圧送機の周辺を上げて社会貢献にも配慮していく必要があると考えている。

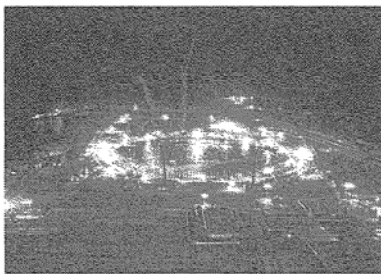
—10月末には国内最大級の相馬LNG基地建設でポンプ車10台よりコンクリートを大量打設 極東開発工業1社の機種

区あるうち、1工区を当社で受注している。—現在、BCP(事業継続プラン)策定を準備中と聞きました。

東日本大震災が発災した当時、社員の安全確認に手間取り、事業を再開するまで相当の時間を要した。早い段階で次に向か

リアでできれば、求人がよくなり得やすくなるわけで、前向きに、どれだけの積極的に取り組むかが問われている。現行法では建設業や運輸業は36協定で

が減るため、なかなか許容しがたいだろう。—外国人技能実習生の受け入れでは先進的に取り組んできた。佐藤社長 技能実習法に基づき新たな外国人技能実習制度が11月から施行される。当社としても準備しているところだ。基本的に3年間を前提に考えているが、優秀な人は5年間に延長することも検討したい。現在国土交通省の制度を利用し、再入国した2人を就労者として受け入れている。それとは別に厚生労働省の新制度を利用していくことになる。当社が受け入れている技能実習生は22人で、皆ベトナム人だ。中国人もいたが、年内に帰国する。ベトナムとの交流が深まるにつれ、現地での圧送事業も夢見ているが、これはまだハードルが高いようだ。



深夜の打設風景(相馬LNG)

させるには需要に心えられただけの台数がある程度用意する必要があり、増やす方向で考えている。経営の主軸は圧送業だが、市場の変化が激しい

も検討中だが、東北地区では運用実績がまだ少なく情報収集している段階だ。経営規模が大きくなっているが、地域社会に



した。佐藤社長 清水建設の現場で当社が施工したLNGタンクは、北陸支店扱いが上越火力1号・2号・3号タンク、直江津1・2号タンク、東北支店では新仙台1号・2号、相馬1号タンクの8基があり、今回で延べ9

で、あとは韓国製(Dong Whim)、ドイツ製(Pfeifer)、中国製(Sumitomo)のスーパードンク車で、選りすぐりの先遣車を揃えた。

—圧送業は厳しい労働環境だが、東北地区では運用実績がまだ少なく情報収集している段階だ。経営規模が大きくなっているが、地域社会に

つて立ち上げられる組織に態勢を整えておく必要があると考える、BCPの策定に取り組んでいる。近く叩き台をまとめる予定で、本社で骨組みを作りそれを各支店に展開していく。その後、毎年見直しをかけて充実させていく方針だ。

例が5年後になくなる見通しだ。一般企業と同じ雇用条件に見直すことにしたが、これが一番の悩みだ。

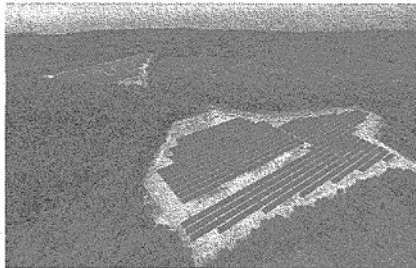
全圧連では休日を増やそうと運動を始めており、建設業振興基金でも週休二日制とベースアップに向けて精力的に取り組んでいる。ただし、従業員にとっては休日が増え、残業が減ると手取り

業容拡大へ布石打つ 雇用環境の改善が課題

働条件から求人が難しい職種だが「働き方改革」への対応は、

例が5年後になくなる見通しだ。一般企業と同じ雇用条件に見直すことにしたが、これが一番の悩みだ。

全圧連では休日を増やそうと運動を始めており、建設業振興基金でも週休二日制とベースアップに向けて精力的に取り組んでいる。ただし、従業員にとっては休日が増え、残業が減ると手取り



メガソーラー発電所(八戸市)